

あとがき

皆さま、「自炊」という言葉をご存じでしょうか。自分で食事をつくるという本来の意味ではなく、本を解体して電子化する作業のことです。私は自分で買った本は後生大事にする人間なので、本を裁断してスキャンするなどという行為にはとても抵抗がありましたし、タブレットで読むなどというのは、読書の基本的な何かを忘れた行為ではないかと常々考えていました。読者の先生方の大半も多分そうであろうと思います。しかし、山積みの段ボール箱に封印された亡父の蔵書をどうしようかと思案してこれは電子化しかないと決意、先月から自炊作業を粛々と進めています。これが結構病みつきになるんですね。特に、昔の文庫本は字が小さくて私のような年齢になるととても読めたものではないのですが、PDF化してKindleで再生すると、字のサイズは倍以上、ページめくりも随時拡大も簡単に、たくさんの本が一気に蘇った実感があります。

書籍の山を前に途方に暮れている読者の皆さまにもぜひ「自炊」をお勧めしたいと思っていますが、亡父の蔵書の中にヤスペルス(Karl Theodor Jaspers, 1883-1969)著、『精神病理学総論』全3巻(内村祐之、西丸四方、島崎敏樹、岡田敬藏訳、岩波書店、1953年)というのが出てきました。父は教育学の研究者で医学にはまったくの門外漢でしたので、こんな本を持っていたこと、また、岩波書店が医学書を出版していたことは驚きでした。さすがにこういう立派な本を裁断するのは忍びなく、お盆休みの時間を利用して赤茶けた本の1ページ目からゆっくり読んでみましたが、これが

なかなかおもしろいんですね。序論の第一項はいきなり「精神病理学総論の限界」とあり、最初のイ・「実践的業務としての精神医学と学としての精神病理学」の章はこのような文章でスタートしています。「精神医学の実践的業務はつねに個々の人間全体を取りあつかう。この人間が精神医の保護や看護や治療を求めて医師に委ねられるにしても、或は精神医が法廷や各方面の役所で人物を鑑定したり、史学上のある人物を鑑定するにしても、或はまた患者が受診にくるにしても、どの場合でもその個人全体をあつかうことに變りはない。医師の仕事はこういう場合個人個人を取りあつかうことがすべてであるが、精神医はこれら個々の場合に出会う要求を処理するために精神病理学者として、一般的概念や法則を求める」。まだまだ続く大著ですので全文をご紹介しますことはできませんが、ここで精神医は脳神経内科医に、精神病理学者はサイエンティストと置き換えることが可能でしょうか。

本号の特集は「脳神経内科ジェネラリストを目指すあなたへ」です。脳神経内科がカバーする領域はとてつもなく広範で、ともすれば広く浅く、実臨床を乗り切るに十分な知識を供給するハウツーものが幅を利かす昨今ですが、深く広く理解することの大切さを噛みしめたいと思います。普遍的な知識と科学をもとに個別の患者の実践的な治療にあたる、ヤスペルスの時代も今も、若手の先生方が目指すべき医療の基本は変わりません。本誌がその志を支える存在であり続けられたいです。(神田 隆)

|       |       |  |
|-------|-------|--|
| 編集顧問  |       |  |
| 石塚 典生 | 糸山 泰人 |  |
| 内山真一郎 | 梶 龍児  |  |
| 河村 満  | 桑原 聡  |  |
| 高坂 新一 | 作田 学  |  |
| 辻 省次  | 寺本 明  |  |
| 中込 忠好 | 中里 洋一 |  |
| 彦坂 興秀 | 平山 恵造 |  |
| 藤澤浩四郎 | 水澤 英洋 |  |
| 水野 美邦 | 森 啓   |  |
| 柳澤 信夫 |       |  |

|             |       |  |
|-------------|-------|--|
| 編集委員        |       |  |
| 神田 隆 (編集主幹) |       |  |
| 下畑 享良       | 高尾 昌樹 |  |
| 三村 将        | 虫明 元  |  |

|        |       |  |
|--------|-------|--|
| 編集同人   |       |  |
| 入来 篤史  | 岩田 淳  |  |
| 宇川 義一  | 内原 俊記 |  |
| 大隅 典子  | 岡部 繁男 |  |
| 木村 和美  | 久保 義弘 |  |
| 栗栖 薫   | 小林 靖  |  |
| 斉藤 延人  | 砂田 芳秀 |  |
| 高橋 良輔  | 瀧山 嘉久 |  |
| 武田 伸一  | 平田 幸一 |  |
| 寶金 清博  | 星 英司  |  |
| 星野 幹雄  | 本田 学  |  |
| 松野 彰   |       |  |
| (五十音順) |       |  |

本誌はMEDLINEに  
収載されており、掲載論文は  
PubMedで検索可能です。

BRAIN and NERVE 第78巻第9号  
2026年9月1日発行(毎月1回1日発行)  
定価 3,080円(本体2,800円+税10%,送料実費)  
2026年年間購読料  
(増大号1冊を含む年12冊,税込,送料弊社負担)  
冊子版 40,370円  
電子版/個人 37,488円  
電子+冊子版/個人 44,550円

印刷所  
(株)アイワード

◆商品・定期購読の送付先変更・その他のお問い合わせ先  
<https://www.igaku-shoin.co.jp/inquiry>  
◆広告・別刷のお問い合わせ先  
(株)ハイブリッジエージェンシー TEL 03-3814-0089  
医学書院 販売・PR部  
TEL 03-3817-5696 [pr@igaku-shoin.co.jp](mailto:pr@igaku-shoin.co.jp)

◆本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、口述権、譲渡権、貸与権、翻訳・翻案権(著作権法第27、28条の権利を含む)は医学書院が保有します。  
◆本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者などの第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。  
JCOPY 出版者著作権管理機構委託出版物  
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、その都度事前に出版者著作権管理機構(TEL 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, [info@jcopy.or.jp](mailto:info@jcopy.or.jp))の許諾を得てください。  
◆「BRAIN and NERVE」は株式会社医学書院の登録商標です。

発行 株式会社医学書院  
代表者 金原 俊  
  
〒113-8719  
東京都文京区本郷1-28-23  
編集室直通  
TEL 03-3817-5701  
FAX 03-3815-7802  
E-mail [bn@igaku-shoin.co.jp](mailto:bn@igaku-shoin.co.jp)  
<https://www.igaku-shoin.co.jp/journal/416>  
担当:有賀・前野  
  
Published by IGAKU-SHOIN  
Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku,  
Tokyo ©2026, Printed in Japan